

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 輸入物価の上昇圧力残存 (05年4月輸入物価)

指標発表日: 05年5月13日(金)

~工業用原料の高い伸びが続く一方、製品の輸入価格上昇は限定的~

(No. UI - 027)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U.S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油	資本財				
04/04	+0.7	+0.2	+0.3	+1.1	0.2	0.5	+0.2	0.1	+0.7
04/05	+0.4	+1.5	+0.2	+5.1	+9.4	+0.0	+0.0	0.1	+1.6
04/06	0.7	0.2	+0.1	0.3	1.1	0.4	+0.2	+0.0	1.0
04/07	+0.5	+0.4	+0.0	+1.1	+2.3	+0.0	+0.1	+0.0	0.7
04/08	0.5	+1.5	+0.3	+5.0	+8.8	0.1	+0.2	0.1	+0.2
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	0.1	+0.2	+0.0	0.4
04/10	+0.6	+1.6	0.1	+5.0	+11.1	0.2	+0.3	+0.1	1.4
04/11	+0.3	0.3	+0.9	1.3	6.0	+0.1	+0.1	+0.2	2.6
04/12	+0.1	1.4	+0.4	5.1	11.4	+0.3	+0.1	+0.3	1.1
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.0	0.1	+0.0	+0.5	+0.2
05/03	+0.6	+2.0	+0.3	+6.4	+12.3	0.2	+0.0	0.3	0.6
05/04	+0.6	+0.8	+0.4	+2.6	+3.1	0.1	+0.2	0.1	+1.1

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1: Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2: Consumer Goods, excluding Automotives

輸入物価 (除く石油) は前月比 +0.4%

05年4月の輸入物価(最終財)は、石油・同製品が前月比で+3.1%上昇に鈍化したため同+0.8%(前年同月比+8.1%)と前月から落ち着いていた。しかし、4ヵ月連続の上昇となり、2、3月合計で0.3%ポイント上方改定されたなかで市場予想の同+0.4%を大幅に上回った。一方、輸出物価は同+0.6%と前月と同じ伸び率となった。

変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は、前月比+0.4%(前年同月比+3.0%)と小幅加速した。消費財(除く自動車)が同0.1%、資本財が同0.1%と減少幅が縮小し、石油を除く工業原料が同+2.1%、自動車が同+0.2%と加速した。消費財では衣服、靴等の下落ペースが加速したものの、玩具・ゲーム、スポーツ用品の下落幅縮小、時計のプラス幅拡大によって全体でもマイナス幅が縮小した。加えて、資本財では特殊機械、コンピューター、通信・音響機器等の下落幅が拡大したものの一般機械、航空機の上昇ペースが加速したため同0.1%とマイナス幅が縮小した。一方、工業原料(除く石油)では、天然ガスの上昇ペースが加速した。加えて、米国内での輸入自動車需要が堅調なことから自動車の輸入価格は上昇した。

トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では石油が+55.8%と大幅なプラスに転じたため、輸入物価は+9.9%とプラス幅が拡大した。さらに、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は+3.1%と伸びが鈍化しているが、工業原料(除く石油)の上昇によって高い伸びが続いており、石油を除く輸入物価でも上昇圧力の強い状態が持続している。

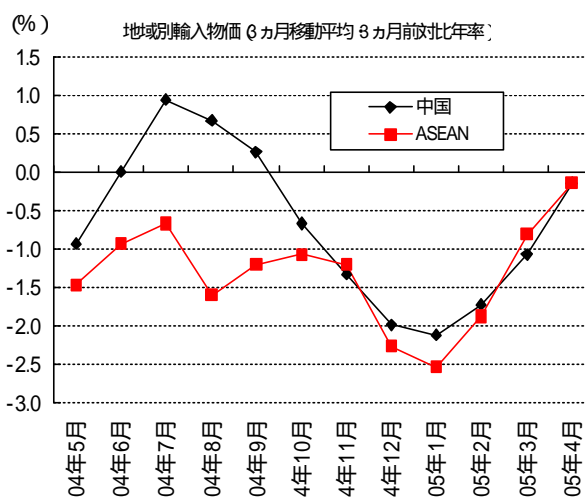
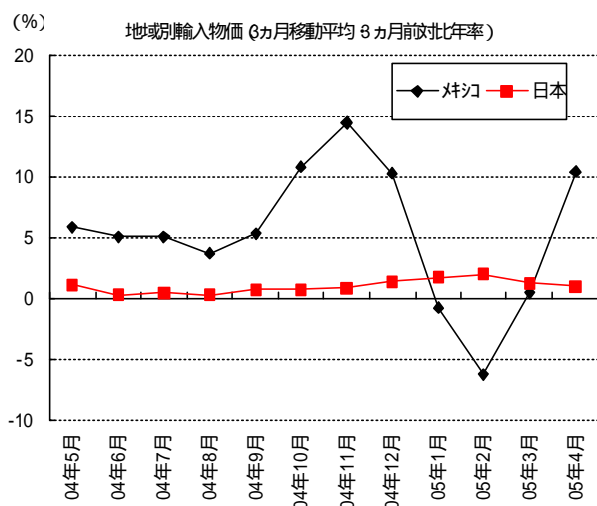
アジアからの輸入物価は低位で安定

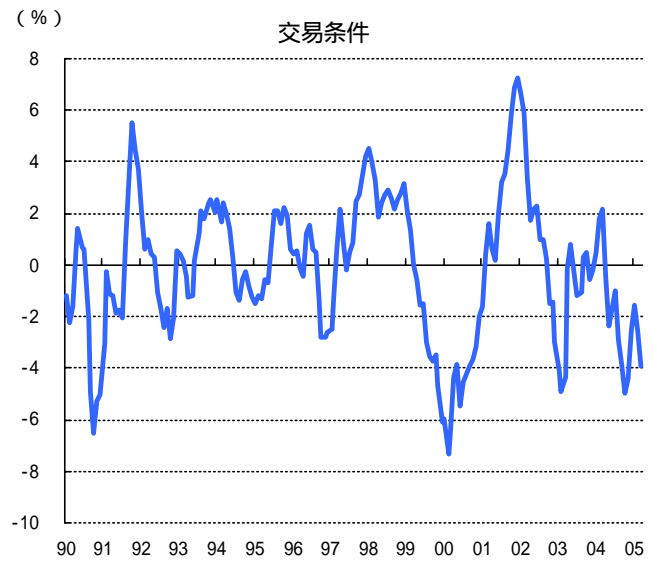
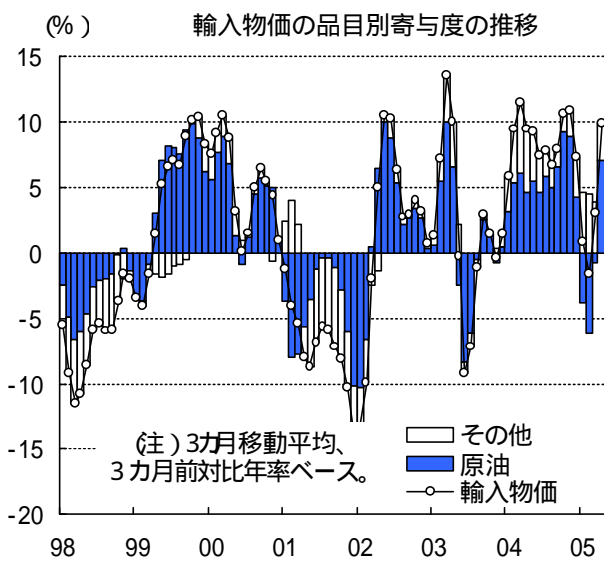
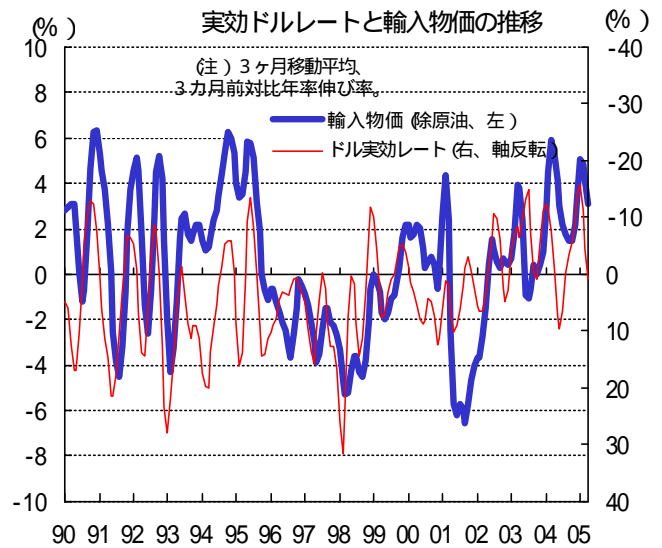
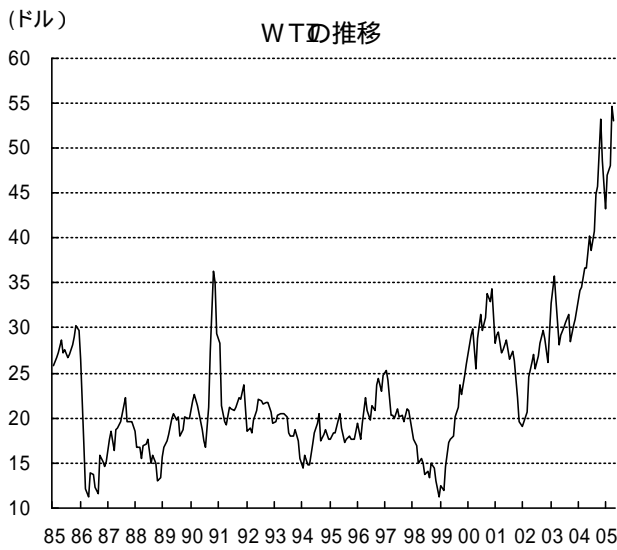
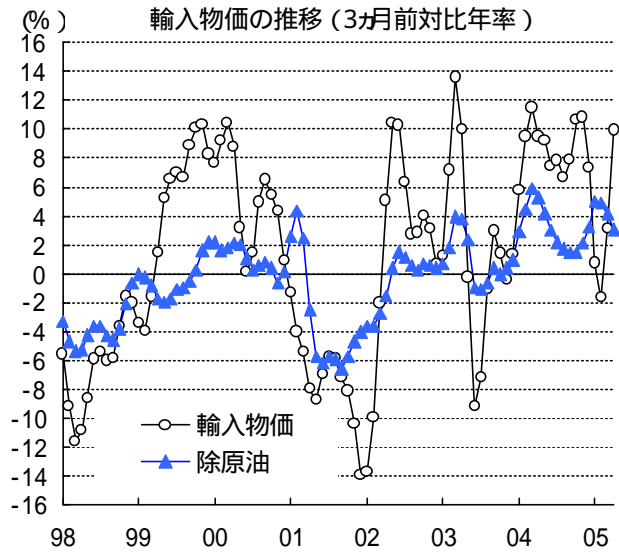
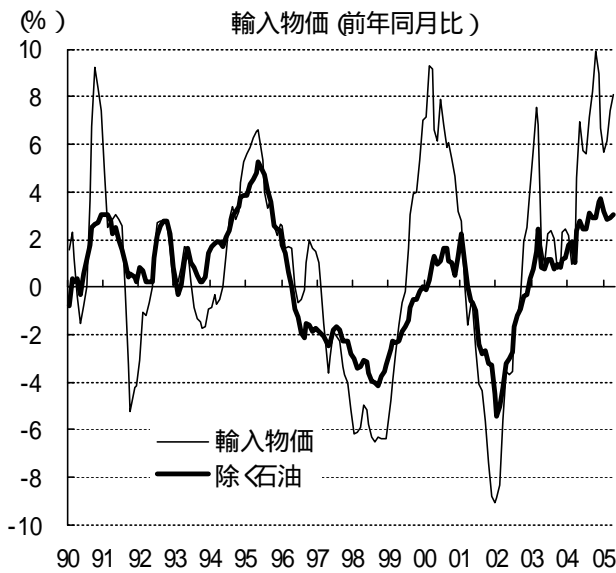
地域別の輸入物価をみると、石油価格上昇、対ドルでの自国通貨高の影響でカナダが前月比+1.2%（前年比+10.3%）、メキシコが同+0.3%（同+7.2%）、EUが同+0.2%（同+5.5%）上昇した。一方、アジアからの輸入物価をみると、日本が同+0.1%（同+1.1%）にとどまり、通貨元がドルペッグされている中国は同+0.2%（同0.4%）、NIE Sが同0.9%（同1.0%）、ASEANが同0.2%（同1.2%）とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価は抑制されている。

交易条件（輸出物価/輸入物価）は、輸出物価が前年同月比+3.1%とプラス幅が縮小した一方、輸入物価が同+8.1%と高い伸びとなったため、足元でマイナス幅が再び拡大しており、マクロでみた米国の対外収益性は悪化している。

今後も輸入物価の上昇圧力残存

今後の輸入物価を取巻く環境については、足下で原油価格は世界的な景気減速懸念を背景に下落している。また、ドル実効レートも金利格差拡大観測から下げ止まっていることから、輸入物価押し上げ圧力は低下している。しかし、世界的な景気の拡大ペース加速に伴う原油の供給不足懸念や、過剰な流動性を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。加えて、経常赤字の拡大によってドル実効レートの大幅な上昇も期待できないことから、今後も石油を含んだ原材料中心に輸入物価の上昇圧力が強い状況が続こう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。